

**コメント**

**1. ヘルパンギーナ**

定点当り3.67人とやや増加しています。安芸区12.0人、西区6.0人と特に多く、東区5.0人となっています。第21週以降増加が続いています。

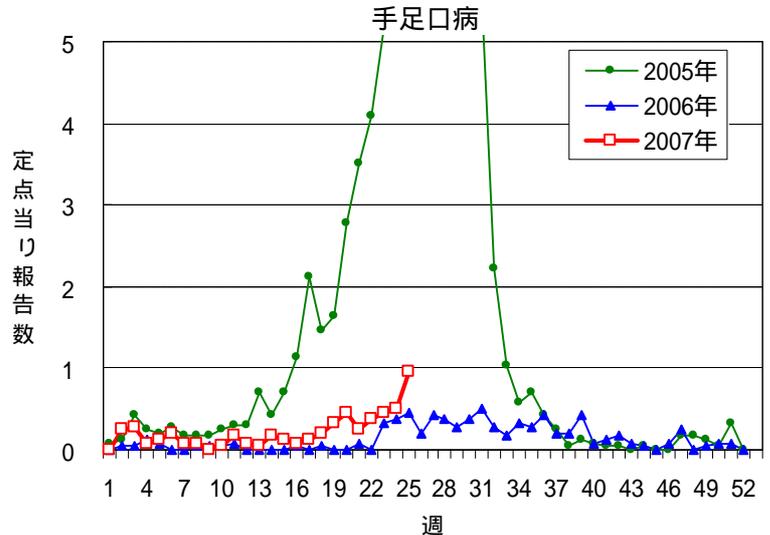
**2. 麻疹・成人麻疹**

小児科定点から2人報告されています (西区・20歳以上 1人、安佐北区 10~14歳 1人)。

また、基幹定点から1人報告されています (16歳)。

**3. 手足口病**

定点当り0.96人と増加しており、流行が始まったものと考えられます。例年同時期と比べて少ない状態ですが、今後の動向に注意が必要です。



**5類感染症報告状況 (定点把握対象分)**

疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号	疾患名	報告数	定点当り	平均過去5年(注1)間	発生記号
インフルエンザ(注2)	-	-	0.11		麻疹(注3)	2	0.08	-	
咽頭結膜熱	11	0.46	0.53		流行性耳下腺炎	4	0.17	1.65	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	42	1.75	1.53	↘	RSウイルス感染症	-	-	-	
感染性胃腸炎	122	5.08	4.52	↗	急性出血性結膜炎	-	-	-	
水痘	30	1.25	2.09	↘	流行性角結膜炎	4	0.50	1.05	
手足口病	23	0.96	5.93	↗	細菌性髄膜炎	-	-	0.03	
伝染性紅斑	9	0.38	0.65		無菌性髄膜炎	1	0.14	0.86	
突発性発しん	26	1.08	1.13		マイコプラズマ肺炎	3	0.43	0.40	
百日咳	1	0.04	0.07		クラミジア肺炎(注4)	-	-	-	
風しん	-	-	0.03		成人麻疹	1	0.14	-	
ヘルパンギーナ	88	3.67	2.16	↘					

急増減 ↑ ↓ 前週と比較しておおむね 1.2以上の増減

増減 ↗ ↘ 前週と比較しておおむね 1.15 ~ 2の増減

微増減 ↖ ↕ 前週と比較しておおむね 1.1 ~ 1.5の増減

横ばい ⇨ ほとんど増減なし

報告数が少ないなど、傾向の判断が不適切と思われるものについては、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数 (小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注1) 過去5年間 (RSウイルス感染症は3年間の同時期平均 (定点当り))  
 (注2) 鳥インフルエンザを除く  
 (注3) 成人麻疹を除く  
 (注4) オウム病を除く

**1類 ~ 5類感染症報告状況 (全数把握対象分)**

類型	疾患名	報告数	累積	備考
2	結核	7	53	女性 (20歳代) 1人、男性 (50歳代) 2人、男性 (60歳代) 1人、男性 (70歳代) 1人、男性 (80歳代) 1人、女性 (80歳代) 1人
5	アメーバ赤痢	1	4	男性 (30歳代)

## 5類感染症報告状況の推移 (定点把握対象分)

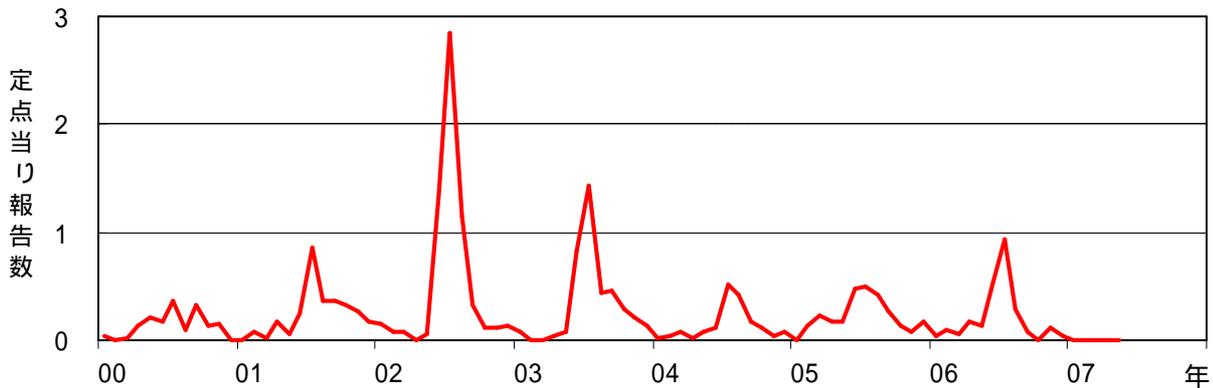
報告数	広島市	インフルエンザ (注1)	咽頭結膜熱 球菌咽頭炎	A群溶血性レンサ	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	風しん	ヘルパンギーナ	麻しん (注2)	流行性耳下腺炎	RSウイルス 感染症	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ 肺炎	クラミジア肺炎 (注3)	成人麻しん
報告数	広島市	7	5	62	162	60	6	10	19	-	-	27	3	5	-	1	11	-	-	8	-	-
	第22週	3	7	48	135	58	9	1	14	-	1	34	3	8	-	-	7	-	-	5	-	2
	第23週	-	14	31	124	41	11	7	23	-	-	43	2	8	-	-	8	1	2	5	-	-
	第24週	1	16	54	129	50	12	7	22	-	-	77	2	5	-	-	3	-	-	2	-	1
	第25週	-	11	42	122	30	23	9	26	1	-	88	2	4	-	-	4	-	1	3	-	1
定点当り	広島市	0.19	0.21	2.58	6.75	2.50	0.25	0.42	0.79	-	-	1.13	0.13	0.21	-	0.13	1.38	-	-	1.14	-	-
	第22週	0.08	0.29	2.00	5.63	2.42	0.38	0.04	0.58	-	0.04	1.42	0.13	0.33	-	-	0.88	-	-	0.71	-	0.29
	第23週	-	0.58	1.29	5.17	1.71	0.46	0.29	0.96	-	-	1.79	0.08	0.33	-	-	1.00	0.14	0.29	0.71	-	-
	第24週	0.03	0.67	2.25	5.38	2.08	0.50	0.29	0.92	-	-	3.21	0.08	0.21	-	-	0.38	-	-	0.29	-	0.14
	第25週	-	0.46	1.75	5.08	1.25	0.96	0.38	1.08	0.04	-	3.67	0.08	0.17	-	-	0.50	-	0.14	0.43	-	0.14
全国	第23週	0.36	0.56	2.56	6.06	2.14	0.58	1.02	0.76	0.02	0.01	0.59	0.07	0.49	-	0.03	0.83	0.01	0.05	0.48	0.02	0.11
	第24週	0.23	0.55	2.23	5.34	2.40	0.65	0.97	0.77	0.03	-	0.84	0.06	0.50	-	0.02	0.77	0.01	0.02	0.34	0.03	0.10

(注1)鳥インフルエンザを除く (注2)成人麻しんを除く (注3)オウム病を除く

## 新たに判明した病原体検査結果

診断名	患者 年齢	性別	発症 年月日	検査材料	検出病原体
感染性胃腸炎	6	男	2007/05/15	糞便	ロタウイルス (A群)

## 【参考】広島市における無菌性髄膜炎の発生動向 (2000年～2007年5月)



(注)このグラフの縦軸は、月別定点当たり報告数の1週当り平均値を示しています。

髄膜炎は、髄膜 (脳や脊髄を保護している膜) が炎症を起こす病気で、このうち髄液 (髄膜の間を満たしている液体) の中に細菌が認められないものを無菌性髄膜炎といいます。

ほとんどはウイルスが原因で、特にエンテロウイルスが全体の約85%を占めています。そのほか、流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ) の原因であるムンプスウイルスも、よく無菌性髄膜炎を引き起こします。

エンテロウイルスを原因とする無菌性髄膜炎は、夏季を中心に流行しますが、年によって、種々のタイプのエンテロウイルスが周期的に流行します。最近の広島市では、2002年の流行時にはエコーウイルス13型が、2003年はエコーウイルス30型が、2004年はエコーウイルス6型が、2006年はエコーウイルス18型が多く検出されました。

今年は、これまでのところ報告数は少ないですが、流行期の夏季を迎えて今後の動向に注意が必要です。

本週報は、速報性を重視していますので、今後調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。なお、感染症情報の詳細についてはホームページをご覧ください。

URL <http://www.city.hiroshima.jp/shakai/eiken/center.html>

### 【問い合わせ先】

広島市感染症情報センター/広島市衛生研究所 〒733-8650 広島市西区商工センター四丁目1番2号  
TEL(082)277-6575 FAX(082)277-5666 E-Mail [eiken@city.hiroshima.jp](mailto:eiken@city.hiroshima.jp)

2007年第25週 (6月18日～6月24日)